

2025 年 9 月 26 日

国際航空専門学校
校長 大森章生 殿

学校関係者評価委員会報告書

学校関係者評価委員会

委員長 岩田高廣



2025 年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告致します。

記

1. 学校関係者評価委員

出席者：

	氏名	所属
委員長	岩田 高廣	国際航空専門学校 元教務部指定養成施設管理室長
委員	安藤 仁	公益社団法人 日本航空技術協会 業務部長
委員	赤松 奈穂子	株式会社 JAL エンジニアリング 総務部 組織・人財グループ グループ長
委員	小池 隆	全日本空輸株式会社 整備センター業務推進部 総務チーム マネジャー
委員	塚野 愛	株式会社 JAL グランドサービス 総務部 課長 採用・海外人財支援グループ長
委員	山崎 一慶	多摩川エアロシステムズ株式会社 整備部 部長
委員	高田 大介	エアロトヨタ株式会社 航空事業本部 執行職
事務局	大森 章生	国際航空専門学校 校長
事務局	武川 泉	" 副校長 兼 管理部長
事務局	有海 和寿	" 教務部長 主席学科教官
事務局	久我 教之	" 管理部 総務部長
事務局	比企野 和也	" 管理部 就職指導部長 兼 業務部長
事務局	松島 共史	" 管理部 業務部 学生募集課長
事務局	高須 清美	" 管理部 業務部 学生募集課主任
オブザーバー	山田 知良	" 元副校長

欠席者：

	氏名	所属
委員	関 理恵	ANA エアポートサービス株式会社 人事部 人事課 マネジャー

2. 学校関係者評価委員会 開催日

2025 年 8 月 21 日（木）15：00～16：45 Google Meet 使用によるオンライン会議

3. 2025 年度学校関係者評価委員会 評価結果

2024 年度の自己評価は妥当と判断する。尚、詳細は別紙のとおり。

以上

別紙

(1) 学校関係者評価委員会の目的

学校関係者評価委員会は、専門学校に求められている「職業実践専門課程」の中に位置しております。「職業実践専門課程」とは、専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的としており文部科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とするものです。「職業実践専門課程」における教育活動には、企業との連携により実践的な教育課程を編成する教育課程編成委員会、および学校を評価する為の自己評価委員会・本日開催の学校関係者評価委員会がごさいます。

学校評価が適切に行われているか、企業・業界団体等からの委員が適切であるか確認し、学校運営改善、情報の提供を行うことが学校関係者評価委員会の目的となっております。

(2) 学校運営方針・重点施策・就職状況

①学校運営方針

1. 高度な知識、能力、安全意識を有する航空技術者を育成し、航空の発展に寄与する
2. 健全な事務状況の確保、機材、施設等の確実な維持管理
3. 年度毎重点施策の提示
4. 学生個々の資質に対応した教育等
5. 教職員の知見向上
6. 開かれた学校運営
7. 社会との繋がり

目的を含めて7項目の中から必要事項を取り上げて校長より年度初めの重点施策が提示されます。提示された重点施策に基づき、我々は教育活動に携わっております。

②2024 年度重点施策

1. 各学科、コースの改変と教官の確保と資格拡張
2. 入学者数増へのカイゼン
3. 各種公的資格の合格率向上
4. 訓練用機材の更新
5. 収支の黒字化と意識改革

以上の 2024 年度の重点施策をもとに学校教職員は教育活動をして参りました。

これについて自己評価をしておりますので、その評価について学校関係者評価委員の皆様にご検討いただければと思います。

③2024 年度就職状況

1. 航空整備科飛行機コース	22 名/22 名	100%
2. " 回転翼コース	8 名/8 名	100%
3. " 一整準備コース	10 名/10 名	100%
4. 運航整備科航空技術コース	6 名/ 6 名	100%
5. イアポート科ランドハンドリングコース	25 名/25 名	100%
6. イアポート科ビジネスコース	3 名/3 名	100%
7. 全体	74 名/74 名	100%

2024 年度はどのコースの学生もすべて就職しました。

(3) 2024 年度自己評価結果の説明・審議

1 学校の理念、教育目標

教育目標に客室乗務員の育成を追記。

2 2024 年度の重点目標と達成計画

1. 航空整備士資格取得クラスにおいては、資格取得 100%を目標とする。
2. エアロサポート科においては、特殊車両実習合格率 80%以上を目標とする。
3. 学生募集活動、入学者数 100 名を目標とする。
4. 乙種第 4 類危険物取扱者資格 初回合格者（1 年次）40%を目標とする。
5. TOEIC SCORE
・整備科 470 点 ・ビジネス科 550 点 ・エアロ科 400 点（2 年次）を目標とする。
6. 第一希望就職先への内定率 85%以上を目標とする。

① 評価項目別取り組み状況

評価の基準は小項目に関する評価の総合判定で中項目、大項目を実施している。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

（総括）教育理念・目的・育成人材像について、課題の発見や取り組みに対して積極的に学生・保護者・関連業界等へ発信してきた。今後も SNS 等を通じた発信の機会を増やし、取り組みを分かり易く伝える工夫を行っていく。

基準 1-1-7～8 「教育理念・目的・育成人材像の周知に取り組み、理念等の浸透度を確認しているか」

学生・保護者・関連業界等への周知・確認方法については、期初や期末において学生・保護者との懇談会や学校 HP、パンフレットでの紹介、近年では SNS を通じた当校の取組を紹介する中で、教育理念や育成人材像の浸透を図っており、今後これらの取組の成果を確認し更なる浸透を進めていく。

基準 2 学校運営

（総括）学校運営に関しての課題は、「5. 意思決定システム」について学内全体での取組に不足があった。

基準 2-2-4 「事業計画の執行体制、業務分担等を明確にしているか」

分担分けを行うことにより、各学科・担当の責任体制を明確にしている。しかし個別の取組について担当者からの共有不足や組織横断的な横串の協力体制に不足があった為、個別案件の全体共有とアイデアを募ることにより、新たな取り組みの推進を図っている。

基準 2-3-11 「学校の組織運営に携わる事務職員の意欲及び資質の向上への取り組みを行っているか」

学生・教職員が一体となって取り組む新たなイベント（学園祭）を計画し、この取り組みの権限と責任体制を明確にすることにより意識向上を図る

ている。

基準 2-5-1～3 「意思決定システムを整備しているか」
隔月で開催されていた運営会議を毎月開催へと変更し、組織課題の共有や取り組みの迅速化を図り、各学科会議での共有や取り組みに繋げることに
より、より迅速な課題解決に取り組んでいる。また決裁権限規程を新設し、
より権限・責任体制を明確にした。

基準 2-6-5 「学生指導において、適切な学生情報管理システムを活用しているか」
教育管理・記録システムについてペーパーレス、電子化の推進に向け、2年
計画で新たなシステムを構築している。

基準 3 教育活動

（総括）教育活動に関して、不足がある項目がある。特に「4. 資格・免許の取得の指導体制」及び「5. 教員・教員組織」については課題解決に向けた前向きの取り組みを実施していく必要がある。

基準 3-2-12～18 「教育課程について外部の意見を反映し、キャリア教育を実施しているか」
定期的、また随時改定を実施している。在校生、卒業生・就職先等へ職業
実践教育の効果に対するアンケートにより毎年実施、また卒業生について
も就職後の第三四半期にアンケートを行い評価を教育および施設教材等
へ反映している。

基準 3-4-2～3 「資格・免許の取得に関連する授業科目、特別講座の開設等について指導体制を明確にしているか」
無線・危険物・TOEIC・ドローン・整備士資格等の取得について、前年度
の振り返りから次年度の教育を検討し、教育計画に反映することで取得率
の向上を図っている。2024年度の危険物については、1学年 金曜日の4
時限目に3クラスの特別講座を1学期期間中設定し、取得率の向上に取り
組んだ。引き続き前年度の課題を検討し、次年度への反映を継続して行く。

基準 4 学修成果

（総括）学修成果に関しては適切に対応しており、課題の発見や取り組みに対しても積極的に
取り組んでいる。旺盛な航空需要の拡大に伴い、航空関連企業の募集状況も改善してきて
おり、就職率100%第1希望就職先への就職率も93%となった。また、今年度も企業等と
共催を図り説明会を72社実施する事が出来た。

基準 4-2-2 「特別講座、セミナーの開講等授業を補完する学習支援の取り組みはある
か」
外部講師を呼んで勉強会を実施出来ているが、一部の資格取得については
まだまだ努力する必要がある。

基準 4-3-2 「卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」

就職先企業様との連携を図り、本年度も卒業生へのアンケートを実施し、状況の把握に努めてまいります。アンケート内容に関してアドバイスをいただければ幸いです。

基準 5 学生支援

（総括）学生支援全般については適切に対応しており、保護者との連携を密に取るなど積極的な対応を図っている。結果として中途退学者は増えたものの、概ね順調に推移することが出来た。

- 基準 5-1 「就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか」
担任、教務部、就職指導部が連携し、生徒個人に適した指導を実施し就職率 100%を達成した。
- 基準 5-2 「退学者の低減が図られているか」
2023 年度中の中途退学者 1 名、転科希望者 5 名から、2024 年度は中途退学者は 8 名、転科希望者 4 名と、進路変更等で中途退学者が増加した。（中途退学率 4.42% ※参考：全国の専門学校中途退学率 6.44%）
- 基準 5-3 「学生相談に関する体制を整備しているか」
相談件数は 12 名の 12 件で進路、学校生活についての相談が多かった。2024 年度下期より、学生が相談しやすいように QR コードからカウンセリング申込が出来るポスターを作成し学校内に掲示した。
- 基準 5-4 「学生の経済的側面に対する 支援体制を整備しているか」
学費の一部を無利子貸与する奨学金「航空整備士育成支援プログラム」を 2024 年度入学者から開始した。2024 年度入学利用者 7 名、2025 年度入学利用者 15 名。

基準 6 教育環境

（総括）教育環境については概ね適切に対応しており、課題が発見されれば積極的な対応に努めている。

- 基準 6-1-3 「図書室の図書は専門分野に応じ充実しているか」
7 号館の図書室を教官室の隣の 205 教室に移転したことにより、学生の図書室へのアクセスが改善した。必要性のある専門分野の図書の更なる充実を図る。
- 基準 6-1-4 「学生の休憩・食事のためのスペースは充実しているか」
創意工夫や改善活動により限られたスペースの有効活用を図る。

基準 7 学生の募集と受入れ

（総括）2024 年度はパンフレット、ホームページの刷新、広報媒体の運用強化、募集活動のデータベース化の取り組みを実施した。また、従来からの高校訪問等については効率的に実施（320

校)し、生徒に人気のある企業見学会の開催を増やすとともに各種イベントにも積極的に参加し学校の知名度向上を図った。その結果、2024 年度入学者 65 名に対し、2025 年度入学者は 113 名となり 2024 年度対比で 173.8%となった。

＜次年度以降の学生募集の重点取り組み＞

- ・ 広告媒体の運用強化
- ・ 効率的な高校訪問の実施
- ・ 会場・高校ガイダンスへの効果的な参加
- ・ 企業見学会の各種イベントへの参加

基準 8 財務

(総括) 年度予算を策定するにあたり、費用発生の時期や金額、予算化が必要な理由について教育現場の担当者にヒアリングを行い、予算を執行する段階においてもその費用の必要性和購入先、購入方法について再度検討を行い、全教職員がコスト削減の意識を持った。

基準 8-1-2 「財務基盤において収入と支出のバランスがとれているか」
収支バランスの均衡を図るため、収入においては、学生募集のために実施した活動の効果を振り返り次の実行に活かし、支出においては、予算執行時に費用項目の必要性を再検証し、必ず相見積もりを実施し支出先を決定した。

基準 9 法令順守

(総括) 法令の遵守に関する取り組みは概ね実施されており、大きな問題は起こっていないが一部において事象が発生した。

基準 9-1-3 「セクシュアルハラスメント等の防止のための方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか」
組織上再発を防止するための措置がルール化されていなかった(対応マニュアルの不備)のでハラスメント対応マニュアルを策定する。また、教職員に対する研修を引き続き実施していく。

基準 10 社会貢献・地域貢献

(総括) 社会貢献・地域貢献に関しては適切に対応しており、各取り組みを積極的に行っている。

基準 10-1 「学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」
近隣中学校からの協力要請に対して、教官による出張マナー講座、本校での職場体験の実施、SDGS ポスター展覧会に参加した。

基準 10-2 「学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか」
献血活動、通学路の清掃活動を実施した。

【質疑応答・ご意見】

小池 様：(質問)

初めての学園祭の反応は如何でしたか。

学校：(回答)

近隣の皆様に所沢に学校があることを知ってもらう為、チケットを配り小中学生にもたくさん来ていただいた。在校生の父兄や卒業生、企業の皆様にもご来校いただき、想定より多くの方に来校いただいた。

小池 様：

素晴らしい成果だと思います。引き続き宜しくお願い致します。

高田 様：(質問)

入学者数が増加しているが SNS やホームページの効果が大きかったのか？

学校：(回答)

広告掲載媒体を増やし、ホームページを見やすくしたことにより、資料請求数やオープンキャンパス参加者数が増え入学者増に繋がったと思います。

高田 様：

学園祭についても企業として協力出来る事はしたいと考えている。所沢もマンション等が増え、人口が増えているので家族等に学校を知っていただけると良いので頑張っていたきたい。

小池 様：(質問)

卒業生のアンケートを見ると就職してから英語に関する意見が上がってきているが、学校の授業の中で企業が使っているシンプリファイドイングリッシュを取り入れていますか。また、危険物取扱者資格の合格率について、本当に資格をとる本気度があるのか、入社後に必要であるということが伝わっていますか。

学校：(回答)

英会話ができるより、企業様から求められている TOEIC の点数取得がクリアできるよう取り組んでおり、レベルも上がっている。危険物資格については、入社後の必要性について説明し、1 学年は、金曜日の 4 時限目に 3 クラスの特別講座を 1 学期中に設定するなど取得率の向上に努めている。

安藤 様：(質問)

卒業生のアンケートを見るとパンやお菓子の自販機の導入希望と女子トイレの増設希望があるが検討していますか。

学校：(回答)

コンビニと自販機の設置を検討したが、我々の規模では売り上げ達成の見込みがなく設置できなかった。トイレは学生の増加を踏まえ検討課題と認識している。

安藤 様：(意見)

今年 ANA さんや JAL さんと協力してショートムービーを作成したのでご活用いただきたい。

②2024 年度重点目標達成についての自己評価

1. 航空整備士資格取得 100%
35 名中 35 名 100%となり満足できる結果となった。
2. 特殊車両実習合格率 95%
特殊車両実習資格検定制度の判定基準に基づく適正な判定を行い、1 年生、2 年生の平均で合格率 95%を達成した。
3. 学生募集活動、入学者 113 名
目標 100 名から結果 113 名となり目標を達成した。
4. 乙種 4 類危険物取扱者資格 1 年生初回合格率 32.8%
目標は 40%。教育コンテンツの共有化及び内容の更新を継続し、教材の見直しも検討する。これらの有効資料を用いて早期より学主を指導し、反復訓練により知識の蓄積を図る等、合格率向上のため指導を行う。また、計画的な危険物の追加授業を行う。
5. TOEIC SCORE （目標：整備科 470 点、ビジネス科 550 点、エアロ科 400 点（2 年次））
平均点で目標を達成したのは、航空整備科一等航空整備士取得準備コースのみ。
教育コンテンツの共有化、内容の更新及び語学力向上のための新教材等の導入を行い、授業等に取り入れたことにより残りのクラスは前年よりは平均点で上昇している。重点目標としての取り組みの成果が徐々に始めている。
6. 第一希望就職先への内定率 93%
目標は 85%以上。卒業生 74 名のうち、69 名が第一希望に内定した。

(4) 2024 年度学生アンケート集計結果

学生による授業評価《座学》まとめ

全体評価：5 あてはまる、4 ややあてはまるという回答が全体の 70%を占めており、ほぼ満足のいく状況となっている。昨年より学習目標の達成度（Q10）も向上している。板書や掲示資料を LED への変更をしている効果も表れている。

学生による授業評価《実習》まとめ

全体評価：5 あてはまる、4 ややあてはまるという回答が全体の 75%を占めており、ほぼ満足のいく状況となっている。全体的に前年より改善されている。

卒業生によるアンケートまとめ

授業について

概ね不満の声は無かった。英語の授業については、個々の英語力により満足度に違いが見られた。引き続き教育コンテンツの共有化、内容の更新及び語学力向上のための新教材等の導入を行う。

学校生活について

旧つなぎについてやや不満があったが、新つなぎに変更し不満の声はない。

弁当販売については販売価格（安価に提供）を優先しており、ボリューム不足に関しては

個人の感覚の差によるもの。

就職について

やや不満の声が5%あったが不満の声はない。

2025年度計画について

①2025年度重点施策

②2025年度行事予定

送付資料でご確認をお願い致します。

【委員長、校長挨拶】

岩田委員長：

昨年度に比べ先生方の検討事項が具体的になっていて、かなり取り組みを進められたと思います。これからも続けていただければ益々国際航空専門学校も発展して行くと思いました。

大森校長：

今までやってもうまく行かないことがあれば、更に対策を立てもう一度トライして行きます。引き続き企業様へ学生を輩出できる様努力して参りますのでご協力を宜しくお願い致します。

実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたっては、学校関係者評価委員の皆様「2024年度自己評価報告書」の結果について事務局より説明し、評価結果に対する意見を頂いた。頂いた意見は、本報告書として取りまとめ、今後の教育活動や学校運営の改善に活かし、教育水準の向上に努めることとし、ホームページ等で公表する。

以上

